

こうざえもんつうしん 講左衛門通信

平成 29 年 4 月 23 日

第 8 4 号

発行 天台宗忍草山東円寺

〒401-0511

南都留郡忍野村忍草38

☎ 0555-84-4114

『忍野村にも遅い春が訪れ、桜の花が満開で美しいのう。今日は、伝教大師最澄様（767年～822年）の教えである「一隅を照らす運動」について話をしようと思っておるんじゃよ。明日24日東円寺では、江戸時代から続く、子育て地藏尊大祭が開催されているんじゃ。10年以上前からバザーを開催しているんじゃよ。バザーの売上金は、忍野村図書館に寄付させていただいているんじゃ。この行為は、最澄様の教えである「一隅を照らす」という精神に基づき行っておるんじゃよ。バザーの収益は、金額にすると大きな金額ではないが、今後も継続していきたいと思っておるんじゃ。今年は、残念なことに、インド子供基金の代表である小谷野女史が体調を崩してしまい来られないんじゃ。インド雑貨などバザーの品数が少なくて残念じゃ。』

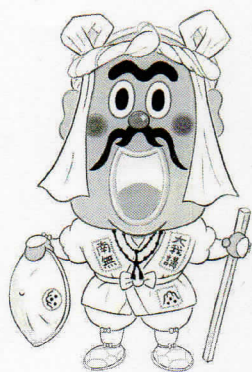
『東円寺の行事は、多くの方に支えられているでまっすん。境内を美しく保つために、行事前日に、役員の方々は境内清掃をしてくれているでまっすん。御詠歌をしてくださる方や、地藏尊祭では、お抹茶がいただけるのも関係者の方々の協力があるからでまっすん。』

『そうなんじゃよ。最澄様のおっしゃる「一隅を照らす」という教えは、社会全体を照らす人になりなさいということではないんじゃよ。家族や地域、様々な環境下の中で、小さくても灯りを灯す人がいれば、その温かな行いは、誰かに通じるものなんじゃ。その灯りを灯す人々が増えれば、温かい気持ちになる人が増える、その連鎖が社会全体を温かく包み込む、大きく連鎖すれば世界平和につながるということじゃな。言葉では簡単じゃが、行うのは難しいことなんじゃよ。小さな灯りを皆が、灯し続けなければ意味がないからのう。現代は、時間が即お金に結びつく時代じゃ。少し考えてほしいんじゃ。われらは気付かずに生活しておるが、自分の意思で生きているわけではないんじゃよ。息を吸ったり吐いたりすることを意識している人はいるのだろうか？酸素は自分で作っているのだろうか？太陽が昇り沈むことは当たり前なのだろうか？当たり前にかかる様々なことに感謝をしているじゃろうか・・・東円寺の行事や、3月～12月の8日にしている八海周辺や新名庄川の清掃行為は、感謝の気持ちを表しておるんじゃよ。この行いを継続することは、地域に小さな灯りを灯す行いでもあるんじゃよ。』

『継続することは難しいでまっすん。けれども、ご先祖様を始めとする多くの人に支えられて現在があることを再確認するでまっすん。あり難い
でまっすん。子育て地藏尊大祭には、多くの方にお参りいただきたいでまっ
すん。』 『そうじゃな。桜も見ごろじゃ・・・』

『次回は、入山料
の話をしようと思
っておる。』

『昔と現在の入
山料の違いにつ
いて詳しく知り
たいでまっすん。
楽しみでまっす
ん。』



クニマッスン
出生地 忍野村
山梨県水産技術センター
□癖 でまっすん..

ふじのだいがこうざえもん
富士大我講左衛門 年齢不詳
職業 大我講の先達
(先達とは案内責任者)

『講左衛門通信』は、第2・第4日曜日に発行予定